

# 現状と課題

## 多発する自然災害

背後に険しい四国山地がそびえ、山地部は降水量も多く、また中央構造線等の大きな断層が県土を縦断し、脆く崩れ易い地質が広く分布していることから、平成7年の肱川の氾濫、平成13年の松山市における土砂災害、平成16年の一連の台風による県下

域の甚大な被害など自然災害が多発しています。

一方、瀬戸内海沿岸地域は、年間降水量が非常に少なく、平成6年には大渇水が発生しています。

また、発生が危惧されている東南海・南海地震では、大規模な被害が予想されます。



平成16年台風21号(西条市)

## 交流と連携

本四3橋の開通や四国8の字ルートの進展で、本州等との交流が大幅に増大する一方、他地域との競争あるいは連携が求められており、既存施設の効果を最大限に活用した地域づくりや、効果を最大限に発揮させるための高速道路ネットワーク等の早期完成が強く

望まれています。

また、経済の急速なグローバル化の進展により、企業活動の国際化など物流の広域化が進み、貿易活動の拠点や高速道路等とのアクセス強化が必要となっています。

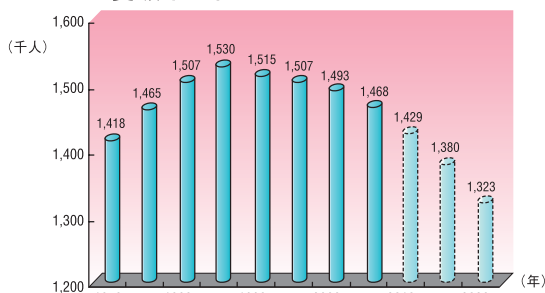


瀬戸内しまなみ海道(多々羅大橋)

## 少子・高齢化

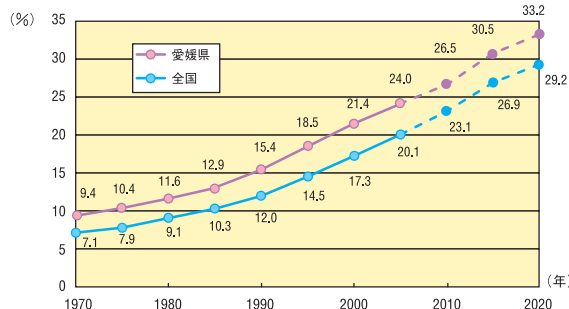
本格的な人口減少と高齢化時代を迎え、本県でも人口の減少が続き、特に高齢人口(満65歳以上)の割合は24.0%で、全国水準の20.1%よりも早いペースで高齢化が進展していることから、人口減少が地域経済に与える影響を緩和するための地域活性化や、高齢者が安心して生活できる社会の構築が必要となっています。

■愛媛県の総人口



※1970~2005年数値は各年の国勢調査結果、2010年以降の数値は国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」による

■高齢人口の割合



## 環境との共生ゆとりの創造

標高西日本一の霊峰石鎚山(標高1,982m)をはじめとする美しい山々とそこから流れ出す無数の清流、風光明媚な大小200の島々が散在する瀬戸内海や宇和海など、全国に誇れる自然豊かな景観に恵まれています。

これらの海、山、川等の貴重な財産を守り育て、未

来に引き継いでいくため、生活排水等の汚水浄化等により河川や海域等の公共用水域の水質の改善や保全を図るなど、自然環境に配慮した施策が必要となっています。

また、人々の生活の力点が心の豊かさや余暇、家庭生活の充実へと変化しており、豊かな自然環境とのふれあいができるゆとりと潤いのある空間の確保が必要となっています。



寒川海岸(四国中央市)

## 都市の再生と活性化

高速交通体系の整備推進にともない、県民生活や経済活動の広域化と利便性が図られる中、県境を越えた都市間競争に対応するため、渋滞緩和や主要施設とのアクセス向上等の都市内交通の円滑化や、快適で賑わいのある魅力あるまちづくりなど、都市の

機能強化に取り組むことが必要となっています。



南江戸町踏切(松山市)